【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成27年7月9日(2015.7.9)

【公表番号】特表2014-516551(P2014-516551A)
【公表日】平成26年7月17日(2014.7.17)
【年通号数】公開・登録公報2014-038
【出願番号】特願2014-513725(P2014-513725)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｑ　1/04　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　1/68　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/53　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/536　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/50　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/15　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｑ　1/04
Ｃ１２Ｑ　1/68　A
Ｃ１２Ｑ　1/68
Ｇ０１Ｎ　33/53　Y
Ｇ０１Ｎ　33/536　D
Ｇ０１Ｎ　33/50　Z
Ｇ０１Ｎ　33/15　Z

【誤訳訂正書】
【提出日】平成27年5月19日(2015.5.19)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項４】
前記メタカリオート（ｍｅｔａｋａｒｙｏｔｉｃ）幹細胞は胎児幹細胞、幼若幹細胞、成体幹細胞または腫瘍幹細胞から選択される、請求項１に記載の方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項８】
前記標識は蛍光性である、請求項７に記載の方法。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項１３】
前記標識は蛍光性である、請求項１２に記載の方法。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項１９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項１９】
前記動物細胞は異種移植固形腫瘍から採取された哺乳動物細胞である、請求項１８に記載の方法。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項２８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項２８】
前記候補作用物質は、ＤＮＡポリメラーゼβ、ＤＮＡポリメラーゼζまたはＲＮＡｓｅ　Ｈ１と中間体ｄｓＲＮＡ／ＤＮＡ二重鎖ゲノムとの会合を破壊する、または、ＤＮＡポリメラーゼβを介したもしくはＤＮＡポリメラーゼζを介した、前記中間体ｄｓＲＮＡ／ＤＮＡ二重鎖ゲノムからのＤＮＡ複製、またはＲＮＡｓｅ　Ｈ１を介した、前記中間体ｄｓＲＮＡ／ＤＮＡ二重鎖ゲノムからのＲＮＡの除去を妨げる、請求項２７に記載の方法。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１８】
いくつかの実施形態では、細胞は、哺乳動物細胞である。より詳細な実施形態では、哺乳動物細胞は、インビボで候補作用物質と接触させ、さらにより詳細な実施形態では、哺乳動物細胞は、異種移植固形腫瘍から採取される。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００９１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００９１】
インビトロスクリーニング法は、増殖しているメタカリオート（ｍｅｔａｋａｒｙｏｔｉｃ）幹細胞を含む培養細胞を候補作用物質と接触させることを含む。より詳細な実施形態では、細胞は、動物、たとえば脊椎動物、たとえば哺乳動物、たとえば霊長類、齧歯動物、イヌ、ネコ、ブタ、ヒツジ、ウシまたはウサギから採取する。さらにより詳細な実施形態では、細胞はヒトから採取する。ある種の実施形態では、培養細胞は、臍帯、外膜、間葉系組織または大動脈弓から採取する。他の実施形態では、培養細胞は、腫瘍、たとえば固形腫瘍、たとえば乳房腫瘍、前立腺腫瘍、肺腫瘍または結腸腫瘍から採取する。特定の実施形態では、培養細胞は、そのすべてを援用する、図２８～３０およびその説明を含む米国特許出願公開第２０１０／００７５３６６Ａ１号明細書の実施例６に記載されているようなＨＴ２９ヒト結腸腺癌細胞である。なお他の実施形態では、メタカリオート（ｍｅｔａｋａｒｙｏｔｉｃ）細胞は植物由来である。こうした実施形態では、たとえば、好ましくない植物（たとえば雑草）に特有であるが、好ましい植物（たとえば、作物）には特有でないメタカリオート（ｍｅｔａｋａｒｙｏｔｉｃ）細胞を標的とする除草剤のスクリーニングを行うことができる。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００９５
【訂正方法】変更

【訂正の内容】
【００９５】
他の実施形態では、生物は、腫瘍を発症しやすいかまたは腫瘍を有する。より詳細な実施形態では、生物は、動物、たとえば、腫瘍を発症しやすいまたは腫瘍を有する哺乳動物である。ある種の実施形態では、哺乳動物は、オンコジーン（たとえば、ＲＡＳまたはＨＥＲ２）を発現するように操作されたトランスジェニック動物であってもよいし、あるいは、腫瘍抑制因子遺伝子（たとえば、ｐ５３）のノックアウトもしくはハイポモルフまたはこれらの組み合わせであり、および／または、変異原処理が行われていてもよい。他の実施形態では、生物は、異種移植モデルであり、たとえば、ヒト腫瘍細胞を移植されている。より詳細な実施形態では、腫瘍細胞は固形腫瘍由来である。特定の実施形態では、哺乳動物は齧歯動物、たとえばラット、マウスまたはモルモットである。異種移植は固形腫瘍に成長させ、その後切除して詳細に研究してもよい。こうした実施形態では、齧歯動物は典型的には免疫力が低下する。当業者は、異種移植技術に通じている。